

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700277		
法人名	有限会社ビバグループ		
事業所名	グループホームビバ美園(1F てんとうむし)		
所在地	北海道岩見沢市美園6条6丁目5-10		
自己評価作成日	令和2年6月5日	評価結果市町村受理日	令和2年8月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175700277-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175700277-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの時間・ペースを大切に、出来る事は一緒にいき、また出来る喜びを分かち合えるように、職員と入居者さんの関係作りを考慮し、ゆっくりと穏やかな時間と明るい雰囲気作りを心掛けています。また地域の方々とも少しでも交流出来る機会を増やし人と人との触れ合いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームビバ美園」は近隣に公園や商業施設がある住宅地に位置し、開設18年目を迎える。運営法人は市内にもう1つグループホームを営んでおり、事業所間連携や労働環境整備など本部役員が現場を訪れ業務改善を推進している。管理者は調査に当たり現状における課題点を示し、また職員へはスキルアップを意識したツールを用いての面談や日々ピア・カウンセリングを行うなど人材育成に努めている。KUMON学習療法システムを導入し認知機能検査長谷川式スケールで効果を得たり、日常生活では握みにくい部分のできる事・できない事の把握、生活のメリハリ、自尊心や意欲の向上、教材を介し利用者と職員のコミュニケーションが深まるなど、療法における職員間での評価等も行い利用者の生活の質の担保に役立っている。生活援助計画は詳細なモニタリングにより立案され、歩行運動を取り入れる事で排便上の課題解決に至り、更に自ら「今日歩いていない」と廊下歩行を行うなど主体性が発揮された事例がある。パズルや将棋などやりたい事を本人に選んでもらう場面を設けたり、ミニレク大会や芸術祭と称し職員によるバイオリン演奏や手品など豊富な内容である。コロナ禍により控えられているが、町内会行事への参加やボランティアによるお茶会の開催など地域とのつきあも良好である。職員は「本人の気持ちを理解し、受け止めながら想いに添える接し方を心がける」と述べ、家庭的な雰囲気の中で良質な個別ケアを目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員が意識の向上に努められるように、ホームの玄関や事務所、休憩所にていつでも理念が確認ができるよう掲示したり、ホーム独自の「スタッフの心得」を毎日勤務者で唱えて、居間に掲げている。	「家庭的な雰囲気の中で良質な個別ケアを目指す」の事業所理念を標榜し、ケア理念、基本方針、あいことばを掲げている。勤務者は「スタッフの心得」を唱和している。理念の共有と実践について今後の目標として示している。	1人ひとりの職員の中で、理念等がどう形づけられるか模索している状況が窺える。調査内で提示された具体的な取り組みが推進されるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の「花見」に参加したり、「子供神輿」に来て頂いたり、ホームの災害時の避難訓練に参加して頂いたり、定期的に地域のボランティアの方々が来られ実施している「お茶会」を開き、交流を深めている。	現在はコロナ禍で難しいが、町内会の花見・バーベキューへの参加や事業所の庭に子ども神輿が来ています。2か月に1度ボランティアによるお茶会が開かれ、お茶や和菓子が振舞われ、花をいけることを一緒にしている。町内会のゴミステーション清掃に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、入居者さんの日常生活の様子やケアの対応、健康面や認知面などを伝えて、理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上の為に、会議の中で入居者さんの状況報告や事故・ヒヤリハット報告を伝え、市町村や地域の方より意見を頂き、改善点や反省点の話し合いを行っている。また会議内で災害時の避難訓練等を実施している。	感染防止により今年度3月から内部関係者のみで実施され、7月は「新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みについて見直しと検討」が協議されている。昨年、避難訓練の様子のモニターが得られている。会議案内と議事録を関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出時に市役所を訪れた際や、運営推進会議に参加して頂いた際に、ホームの状況を伝えたり相談をしている。また状況に応じて電話での相談も行っている。	市の担当窓口にて文書の提出や変更事項の届出等で出向いたり、その都度電話で確認している。市からの情報メールは適宜職員にも回覧し共有している。生活保護課の担当者ともサービスの状況の伝達や連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度、身体拘束等廃止検討委員会を設置して勉強会を行っている。またケア会議の中でも、ケアの中で身体拘束にあたる項目がないか随時話あっている。	「身体拘束等行動制限についての指針」を整備し、2か月に1度、ケア会議内で身体拘束等廃止検討委員会を開催している。これらに係る内部研修は当会議内で行われている。「事例から学ぶ」「ホームでの日常生活のケアについて身体拘束やグレーゾーンに当たる項目がないか」等、検討や研修が行われている。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議の中で勉強会を実施して虐待防止に努めている。また高齢者虐待の外部研修に参加して、資料配布や報告書を回覧して、研修に参加出来ないスタッフにも内容を理解して頂いている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者さんが成年後見制度を活用している。また、状況に応じて制度を活用する必要性があるかその都度検討し、支援できる環境作りを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にサービス内容を、ご本人やご家族に十分に説明し、不安な点や不明点がないかお聞きしている。また料金等の改定がある場合は、その都度内容を説明して同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や毎月の利用料の支払いの際に、意見や要望をお聞きしている。また運営推進会議の出欠のハガキに意見を書いて頂ける欄を設けて、意見を聞きやすいようにしている。	利用者からは個々に要望が出されており、その都度対応している。成年後見人の方より防災についての提言があり訓練に反映させた事例がある。3か月に1度、事業所便りに個別の様子を記し送付している。増刊号は本人直筆のメッセージなどが添えられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね半年に1度個人面談を実施し、悩みや困り事を聞く機会を設けたり、日常のケアの中や、会議の中で個々の意見や思いを聞き入れて反映させている。	日頃から職員との対話を心がけ相談等に応じている。概ね6か月に1度、職員がスキルアップシートにて自己評価を行い、管理者・介護支援専門員が職員との個別面談を実施し相互評価を行う仕組みを確保している。各係りを職員が分担し会議等で提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の中一人ひとりと会話をしていく中で、思いや意向を確認している。また個々の努力や実績を把握して職場環境の改善に努め、労働時間内に仕事が出来やすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に応じて外部研修への参加を促したり、ホーム内での勉強会の提案をして頂いたり、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネージャーは、近郊のグループホームとのネットワークを通して行っている会合に、定期的に参加して情報交換したり、研修会を開催したりとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学時に、ご本人の要望や困っている事等を伺い、安心して暮らして頂けるように、出来るだけ不安を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族も含めた思い・要望、ご本人の生活状況を聞き入れ、可能な限りどのような対応が出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてグループホーム以外のサービスがある事も入居前にお伝えし、その方の状況に合ったサービスを選択して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いが協力していきながら生活が出来るように、一人ひとりにあったお手伝いを見つけてお祝いし、暮らしを共にしていく環境作りを努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係が途切れないように、月に1回の面会や、外出・受診など可能な限りお願いしている。面会の際は、日頃の様子をごまめに報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き馴染みの美容室へ行かれたり、馴染みの方がホームに来られたり、入居前からの関係性が継続できるように支援している。	昔の職場関係の方や宗教の方の訪問があり、その際はゆっくりと居室で過ごしてもらっている。お正月の一時帰宅や墓参に家族と出かけている。神社は利用者の馴染みの場所でもあり、職員と一緒に出かけることがある。送迎付きの理美容室も馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく穏やかに円滑に過ごして頂けるように、職員は一人ひとりの状況を把握して、入居者さん同士の関係性を理解するように努め、また意思疎通が困難な方は、トラブルにならないよう状況に応じて職員が間に入り、関わり方に配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状の生活形態が変わらないように、他施設への入所や入院時には、ご本人の健康状態やホームでの過ごし方等の情報を提供しスムーズに移行出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	学習療法時や日常のコミュニケーションを取る中で、一人ひとりの考えや思いを把握するように努めている。また意思表示が困難な方からは、日々の動作や表情から汲み取れるように努めている。	把握の一例であるが、食べている時の表情や口へ運ぶペースなど、本人がどうかという事に気づくようにしている。廊下歩行や居室のモップがけなど、本人が取り組みたい意思を掴み、計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に今までどのように暮らしていたのか、ご本人やご家族から情報を頂き、生活歴や現在の状況を知る為の把握に努めている。また他のサービスを利用されている場合は、他の事業所からも情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々の過ごしや健康状態を把握するため、個人日誌やバイタルチェック表に記載し、一人ひとりの状況を把握して情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中でご本人の思いや意見を聞き入れて、ご家族にも要望や意見を聞き、本人本意のプラン作成に努めている。各職員が担当制になり各入居者さんのモニタリングを実施し、毎月のケア会議で検討している。	毎月のケア会議で利用者カンファレンスを行い、意見交換を行っている。フェイスシートはおおむね6か月ごとに更新、または各利用者の状態変化に伴い更新し変化を記載している。生活支援計画モニタリング・評価シートの記述が詳細で今後のより良いケアのための分析に至っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化があった場合は、詳細を個人日誌や業務日誌に記入し、職員同士での引き継ぎや情報共有を行っている。またケアプランの更新時は、ケア会議の中で意見交換を行い見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など、ご本人やご家族の状況に応じて必要な支援を行っている。ご本人の希望にできるだけ寄り添い買い物等、必要な支援に対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	概ね2ヶ月に1度、地域のボランティアの方々がホームに来園されお茶会を開いて頂いている。また町内会の花見などに参加したり、秋祭りの子供神輿が来園したりと地域の方々と交流できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人とご家族に、今後の受診についての意向を伺い、希望がある場合はホームのかかりつけ医に変更している。またかかりつけ医(内科・皮膚科)は月1回往診に来て頂いたり、必要に応じて電話でも相談している。	月1回の内科・皮膚科及び歯科医による必要時の往診、月2回の訪問看護の体制を整えている。その他の診療科へは、適宜職員や家族が対応している。医療に関する記録は「往診表」「訪問診療・訪問看護確認票」に記し、関係者間で情報を共有している。	

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際に、訪問看護確認表を作成して一人ひとりの状況やかかりつけ医による薬の変更等を伝えて相談する中、アドバイスを頂き情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院へ必要な情報を提供し、ご本人の状態と今後等について医師やご家族と話し合う機会を作れるようにしている。退院時にはホームに安心して戻って来られるように、ご家族や医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、ホームの重度化に伴う指針について説明し承諾を得て、入居後もご本人の状態や状況に応じて、その都度ご家族やご本人と話し合う環境を設け、今後の方向性について一緒に検討している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、食事経口摂取が可能なぎりぎりの状況まで対応が可能である。主治医の意見を仰ぎつつ見極めを行い、家族等と話し合っている。特養や療養型への移行支援を行い、家族等のサポートに力を注いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル表を居間に設置し、全職員が共用しその内容に沿って初期対応を行っている。また緊急連絡網を作成し職員に連絡が行きわたるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の方立会いの中、日中・夜間時の火災時の避難訓練を年2回実施し、地域の方々にも参加して頂いて避難仕方・消火器の使用の仕方を確認している。また通報装置には、近郊の地域の方も登録させて頂いている。事業所独自の地震・水害時の自主避難訓練も年1回は実施している。	今年5月に車椅子対応の利用者が1名増えたため避難順番を確認する目的も含めて日中想定下の火災避難訓練を実施し、1月は夜間想定で消防署と地域住民の協力を得て火災避難訓練を実施している。また、年1回地震・水害想定訓練を行っている。胆振東部地震後に備蓄品の見直しが行われている。	臨場時に全職員が適切な避難誘導が行えるよう、訓練を重ねる考えを示しているため、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であるという意識を忘れずに接し、プライバシーを守れるようにイニシャルを使用し、適切な言葉掛けが出来るように努めている。	職員は年に数回の研修を重ねて、接遇身だしなみチェック表を活用し、利用者を敬い尊厳を重視した対応をしている。個人記録も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの希望に沿うようにメニューを変えたり、自分で決められるように、やりたい事等を自分で選んで頂く場面を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、ご本人の気持ちを尊重し、事故の無いようにその方に合わせた声掛けや見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	送迎付きの理容室や訪問美容室を利用したり、希望に応じてなじみの美容室へ行かれたりしている。また四季に合わせた身だしなみやおしゃれを楽しんで頂く様に対応している。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの旬の食材を取り入れて食事でも四季を感じて頂けるように献立を作成している。また一人ひとりの食べ方に合った食器や盛り付けを行っている。	献立は利用者の好みも取り入れて作られている。外食や特別食の日もあり、誕生日や行事にはちらし寿司や手毬寿司、釜飯、流しそうめん、庭でバーベキューをするなど楽しく食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚、野菜、大豆、海藻類など十分に摂取できるように栄養バランスを考え献立を作成している。また毎日の水分量を確保できるようチェック表を見ながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じ義歯の洗浄や義歯の預かり、または声を掛けて行って頂いたりスタッフ支援し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個人日誌で把握し、自ら訴えられない方には、時間を見ながら自尊心に配慮した対応を行っている。また状況に応じて事前に声掛けを行う事で、可能な限り失敗を減らせるよう支援している。	排泄の記録は適切に記入しており、個々に応じた声かけで起床時の水分補給や運動などでスムーズな排泄ができるように支援をしている。夜間のみ居室のポータブルトイレを利用する方もいるが、全員が便器に腰かけ排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のお味噌汁や飲料に食物繊維のファイバーを入れたり、朝夕の米飯に刻んだ白滝を混ぜて提供している。また個々の排便状況をチェック表で把握しながら、起床時に冷水を提供したり、医師に相談し下剤の調整を行ったりとして便通改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面にも配慮してなるべく個々の希望に添った日時に入浴して頂き、週に2回を目安にして実施している。また個々の希望に応じて順番を決めたり、好みの温度設定にしたりと気兼ねなく入浴を楽しんで頂くよう努めている。	日曜以外の午後に3名程度が順番に入浴しており、好みの入浴剤や職員とのプライベートな会話を楽しみながら入浴できるよう支援をしている。希望があれば同性介助での入浴支援にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活リズムに合わせて休んだり活動を促している。また夜間時眠られない方には日中に休み過ぎないように配慮したり、パズルやゲーム、簡単な運動等の活動を促し昼夜逆転しないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れがないよう服薬前には二重・三重にチェックを行い対応し、また飲み終えるまで見守りを行い、飲み残しがないか確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で出来る事を役割としてお願いし、その都度感謝の気持ちを伝えている。また個別に楽しんで頂くように、パズルや将棋、ぬり絵など自由に行えるように目の届く所においたり、レクリエーションを提供したりしている。		



グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況に応じて、天気の良い日等は散歩やドライブに出掛け季節を感じて頂いている。また、ご家族さんの協力のもと、美容室や外食、外出などに掛けている。	町内会の花見やバーベキューにも参加している。ドライブで岩見沢神社祭り、花見、紅葉見物に出かけている。事業所の前庭で日向ぼっこや花壇の手入れをしている。年末年始を自宅で過ごす利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望やご家族の意向に応じて、お金を所持したり使って頂くように支援し、その中で本人の自立や安心に繋げるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族さんからの希望に応じて、電話を掛けたり、お話ができるように努めている。また希望があれば自室に電話を設置して対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事を感じられるように、居間や廊下、玄関に飾り付けをしている。居間では、温度計を設置し室温や乾燥の状態に応じて、冷暖房や加湿器やサーキュレーターを使用して快適に過ごせるよう努めている。夏場は居室の温度が上がり過ぎないように、各居室に温度計を設置し温度に合わせて換気を行うようにしている。	空調管理された明るく清潔で快適な共有空間の居間に集い、手芸やパズル、ゲームやテレビの視聴など利用者が自由に過ごしている。玄関や居間に利用者の手作り作品を飾っている。面会時には飛沫飛散防止対策用に透明ビニールで玄関ホールの一部を区切るなど、感染症対策をして利用者が安全に暮らせる配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下で自由に座って頂けるように、ソファや椅子を設置し、気の合った入居者さん同士が談話出来たり、1人でも過ごせるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前と変わらない生活を送れるように、馴染みの家具や寝具、仏壇・写真などをホームに入居しても置いて頂き、使い慣れた物の中で落ち着いた生活が過ごせるように努めている。	ストーブとクロゼットが備えられている部屋に、使い慣れた家具や物品を持ち込み安心して暮らしている。ベッドや椅子、テレビ、家族写真、日めくりカレンダー、ぬいぐるみや位牌を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりが困難な方には、居室にポジションバー等を設置したり、廊下やトイレに手すりを設け安全面に配慮している。また居室には表札を貼り、トイレの前にも『トイレ』の札を掛ける事で入居者さんが迷わないようにしている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム ビバ美園

作成日：令和 2年 8月 14日

市町村受理日：令和 2年 8月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員が救命救急の講習会に参加出来ていない。	救命救急の講習会に参加出来る機会を設けていく。	職員が救命救急の講習会に参加出来る機会を設け、参加出来ていない職員にも周知していく。	12ヶ月
2	1	新しい職員も含め職員間にてホームの理念の共有に欠けている面がある。	全職員が理念を共有しそれに基づいたサービス提供ができるようになる。	ケア会議等で理念を元にした研修会を実施して、職員の共有の向上を行う。	12ヶ月
3	35	全職員が避難訓練(災害も含め)の手順を把握できていない所がある。	様々な訓練(自然災害設定も含め)を実施して、全ての職員が把握できるようになる。	自主訓練の機会を増やして実施し、把握できるようになる。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。